

京都府の地震活動

平成 29 年 (2017) 10 月

第 30 卷 第 10 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	・・・ 1
断面図	・・・ 2
京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度一覧表	・・・ 3
京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度分布図	・・・ 4
【地震一口メモ】平成 29 年 11 月 1 日から「南海トラフ地震に関連する情報」の発表をはじめました	・・・ 5

『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

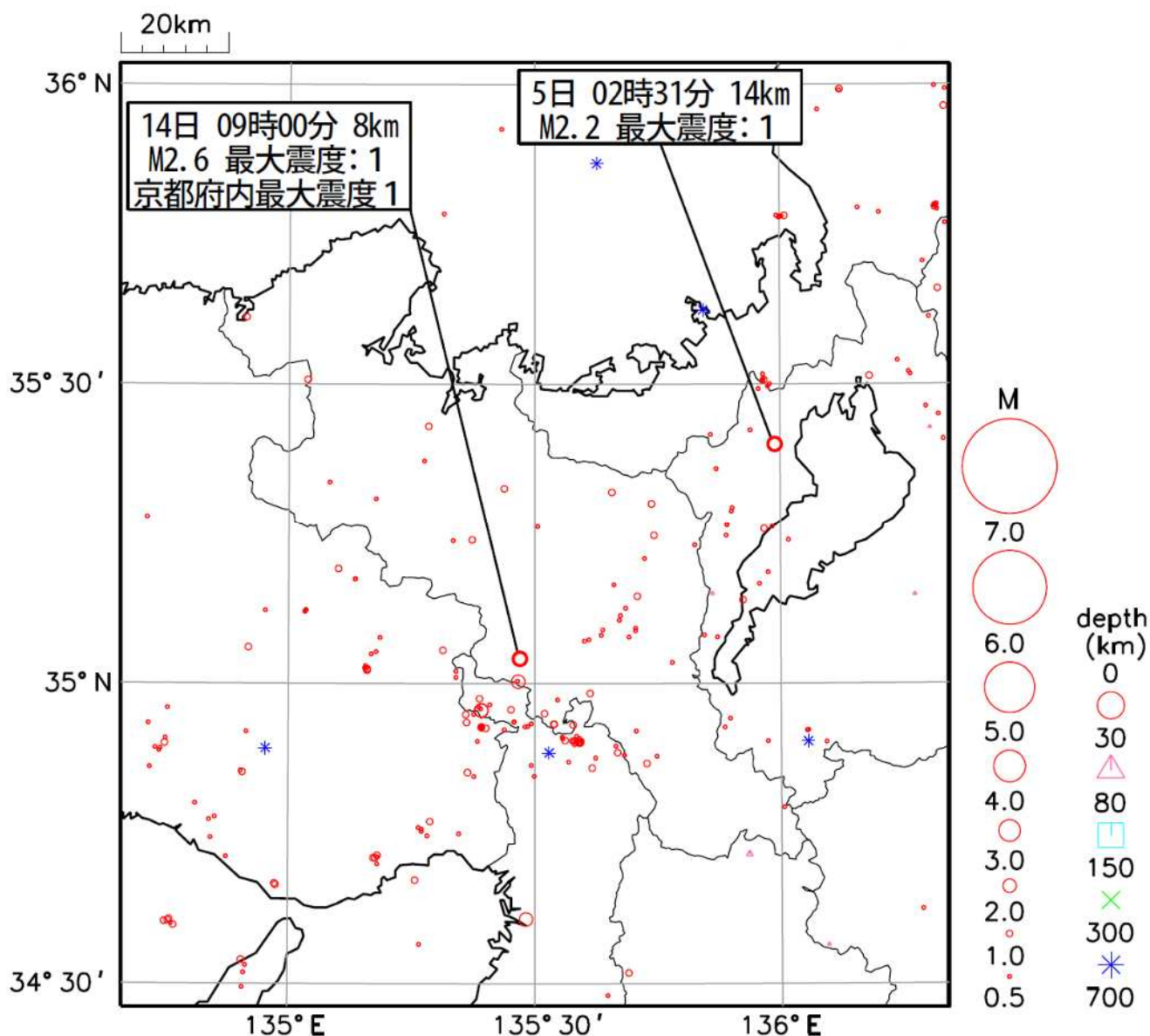
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図 (マグニチュード0.5以上、深さ0~700km)

2017 10 01 00:00 - 2017 10 31 24:00

総数: 238



- 震源地の深さを表す「 \square 、 \triangle 、 \times 、 $*$ 」の記号は、マグニチュード (M) の大きさに対応したサイズで表記。
- 震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード (M) 及び京都府内で震度を観測した地震については、京都府内最大震度を付記。

概況

10月の震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は11回、震度1以上の揺れを観測した地震は2回でした (9月はそれぞれ11回、3回)。

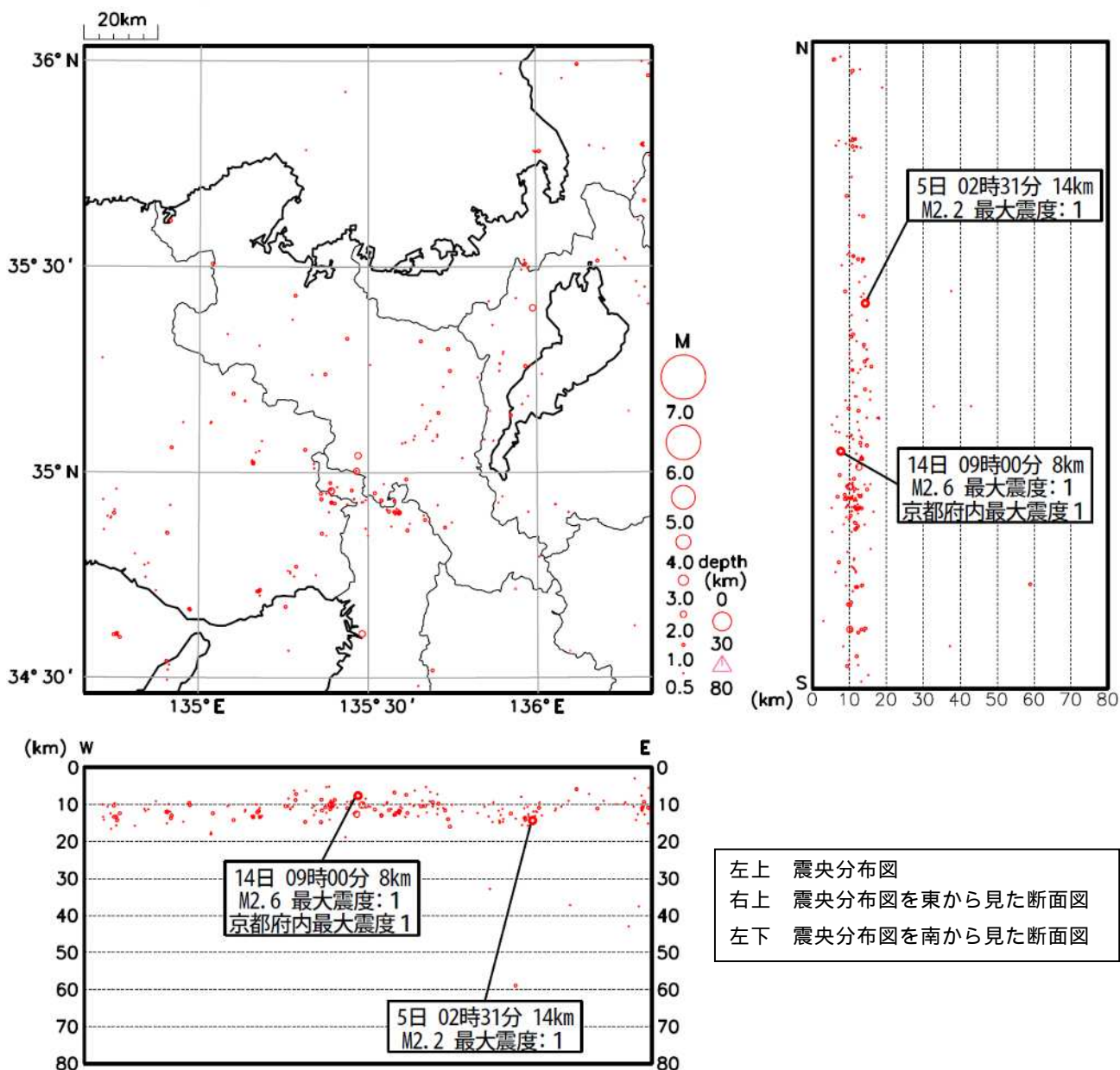
発生した地震のうち、京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震は1回 (9月は3回) でした。

14日09時00分 京都府南部の地震 (M2.6、深さ8km) により、京都府南丹市で震度1を観測しました。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）

2017 10 01 00:00 - 2017 10 31 24:00

総数：233



左上 震央分布図
 右上 震央分布図を東から見た断面図
 左下 震央分布図を南から見た断面図

・震源の深さを表す「 \circ 」、「 \triangle 」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表(2017年10月)

番号	観測日時		震央地名	北緯	東経	深さ	規模
	月日	時分		(度分)	(度分)	(km)	(M)
	10月14日	09:00	京都府南部	35°02.4	135°28.2	8	2.6

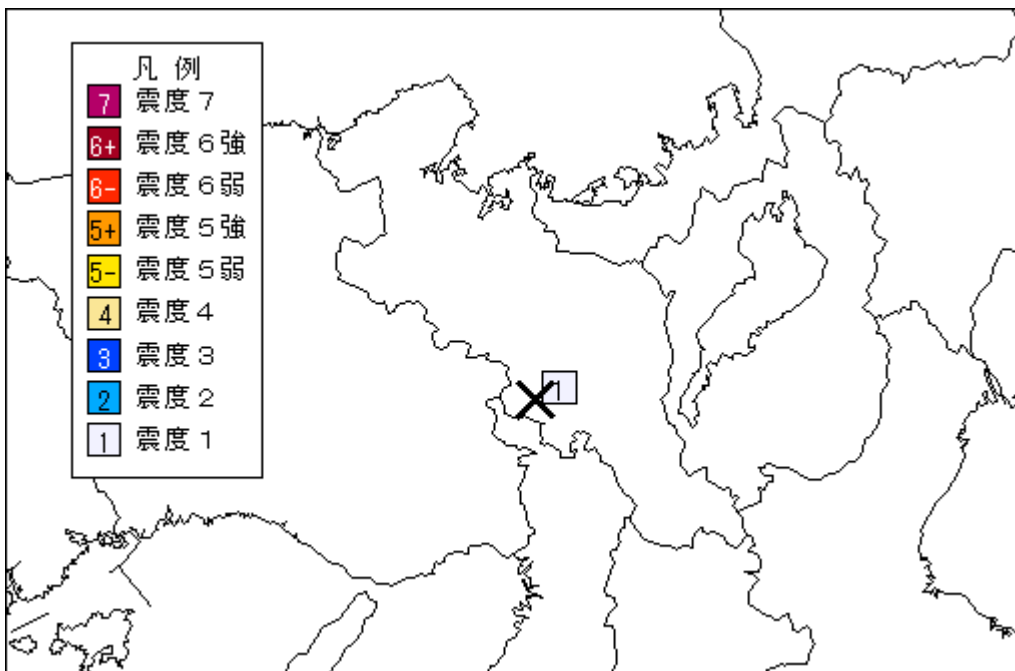
地域	震度観測点	所属	各地の震度
北 部	福知山市内記	気	-
	福知山市長田野町	防	-
	福知山市三和町千束	自	-
	福知山市夜久野町額田	自	-
	福知山市大江町河守	自	-
	舞鶴市下福井	気	-
	舞鶴市浜	防	-
	舞鶴市北吸	自	-
	綾部市若竹町	自	-
	宮津市柳縄手	自	-
	伊根町亀島	防	-
	伊根町日出	自	-
	京丹後市弥栄町吉沢	気	-
	京丹後市久美浜町広瀬	防	-
	京丹後市峰山町	自	-
	京丹後市大宮町	自	-
	京丹後市網野町	自	-
	京丹後市丹後町	自	-
	京丹後市弥栄町溝谷	自	-
	京丹後市久美浜市民局	自	-
南 部	与謝野町加悦	自	-
	与謝野町岩滝	自	-
	与謝野町四辻	自	-
	京都北区紫竹	自	-
	京都北区中川	自	-
	京都上京区藪ノ内町	自	-
	京都上京区今出川御前	自	-
	京都左京区広河原能見町	防	-
	京都左京区田中	自	-
	京都左京区鞍馬	自	-
	京都左京区花脊	自	-
	京都左京区岩倉	自	-
	京都左京区大原	自	-
	京都中京区西ノ京	気	-
	京都中京区河原町御池	自	-
	京都東山区清水	自	-
	京都下京区河原町塩小路	自	-
	京都南区西九条	自	-
	京都右京区京北周山町	自	-
	京都右京区太秦	自	-

地域	震度観測点	所属	各地の震度
南 部	京都右京区嵯峨	自	-
	京都右京区嵯峨嵯原	自	-
	京都伏見区竹田	自	-
	京都伏見区醍醐	自	-
	京都伏見区向島	自	-
	京都伏見区淀	自	-
	京都伏見区久我	自	-
	京都山科区安朱川向町	防	-
	京都山科区西野	自	-
	京都西京区櫻原	自	-
	京都西京区大枝	自	-
	宇治市宇治琵琶	気	-
	宇治市折居台	防	-
	亀岡市安町	気	-
	亀岡市余部町	防	-
	城陽市寺田	自	-
	向日市寺戸町	自	-
	長岡京市開田	自	-
	八幡市八幡	自	-
	大山崎町円明寺	自	-
	久御山町田井	自	-
	京田辺市田辺	自	-
	井手町井手	自	-
	宇治田原町荒木	自	-
	笠置町笠置	自	-
	和束町釜塚	自	-
	精華町南稲八妻	自	-
	南山城村北大河原	自	-
	京丹波町坂原	気	-
	京丹波町蒲生	自	-
	京丹波町橋爪	自	-
	京丹波町本庄	自	-
	南丹市美山町島	自	-
南丹市園部町小桜町	自	-	
南丹市八木町八木	自	1	
南丹市日吉町保野田	自	-	
木津川市山城町上狛	自	-	
木津川市加茂町里	自	-	
木津川市木津	自	-	

注1：所属のうち、「気」は「気象庁」、「防」は「防災科学技術研究所」、「自」は「自治体」を示しています。

注2：表 数字は、10月に京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震番号を表しています。

京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度分布図（観測点別）



10月14日 09時00分 京都府南部の地震（M2.6、深さ8km）

（図中の×印は震央位置）

【地震一口メモ】

平成29年11月1日から

「南海トラフ地震に 関連する情報」

の発表をはじめました

気象庁では、中央防災会議防災対策実行会議における「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の報告を受け、新たな防災対応が定められるまでの当面の間、「南海トラフ地震に関連する情報」を発表することとしました。
この情報は、平成29年11月1日から運用を開始しました。

情報の種類と発表条件

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震に関連する情報(臨時)	<ul style="list-style-type: none"> ○南海トラフ沿いで異常な現象※1が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ○観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合 ○南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報(定例)	○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」※2の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

※1:南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生した場合や東海地域に設置されたひずみ計に有意な変化を観測した場合などを想定

※2:南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価するにあたって、有識者から助言いただくために開催

「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」が発表されたときは、日頃からの地震への備えを再確認してください。

(地震への備えの例)

家具の固定、避難場所・避難経路の確認、家族との安否確認手段の取決め、家庭における備蓄の確認

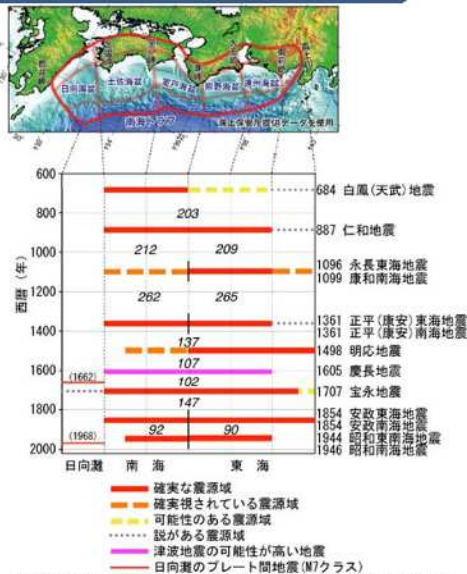
○本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報(東海地震に関連する情報)の発表は行いません。

○本情報を発表していなくても、南海トラフ沿いの大規模地震が発生することもあります。

「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の報告書は、内閣府のホームページからご覧ください。 http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/taio_wg.html



南海トラフ地震とは



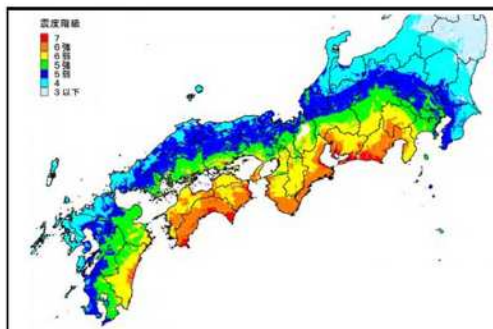
駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。

この南海トラフ沿いのプレート境界を震源とする大規模な地震が「南海トラフ地震」です。南海トラフ地震は、おおむね100～150年間隔で繰り返し発生していますが、その発生間隔にはばらつきがあり、震源域の広がり方には多様性があることが知られています。

昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年以上が経過しており、南海トラフにおける次の大規模地震発生の可能性が高まってきています。

南海トラフ地震の震源域の時空間分布

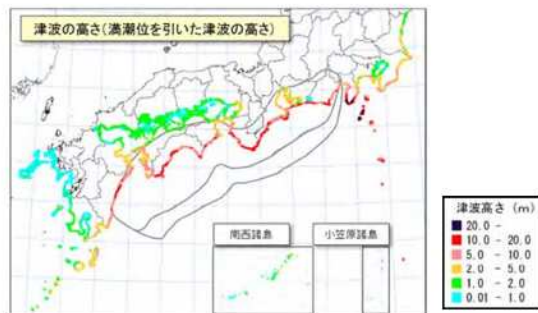
「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部) < 図中の数字は地震の間隔年数を表す >



想定震度分布

(複数の想定されるケースの最大値の分布)

「南海トラフ巨大地震の被害想定(第二次報告)」(内閣府)



想定津波高

「駿河湾～愛知県東部沖」と「三重県南部沖～徳島県沖」

に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定した場合

ここで示した想定される震度分布と津波高は、様々なケースが想定されるうちの一例を示したものです。これより大きな震度、高い津波となる場合もあります。



南海トラフ地震防災対策推進地域
(南海トラフ地震により著しい被害が生ずるおそれのある地域)

南海トラフ巨大地震*の想定震源域
*南海トラフ沿いにおいて、科学的に想定しうる最大規模の地震

(内閣府資料に一部加筆)

〇お問い合わせ先
気象庁 地震火山部 地震予知情報課
〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
電話:03-3212-8341(代表)

平成29年11月